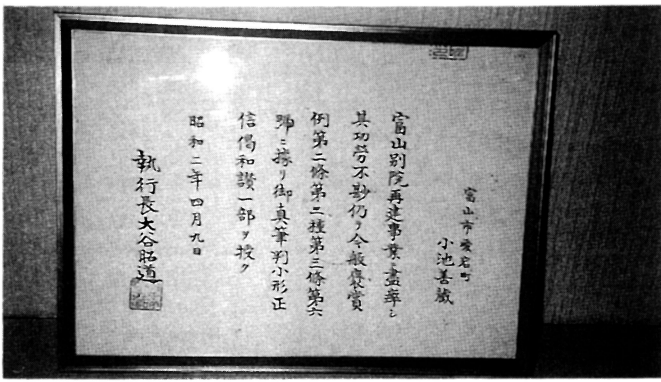


(三)西別院へ納材

父の長い納材生活の内、金額的に大きかったものは金沢の東別院だったと思う。前にも書いた通り、総工事代金一二〇万円、富山の西別院は、六〇万円だったと聞いて居る。然し富山の西別院は、先づ地元であり富山市民、注目的だった西別院だけに、仕事のやり甲斐として、亦私の店の宣伝効果にも、大いに役立ったと思つて居る。それ以前の私の店の仕事は、富山市以外の地が多かっただけに当店の事業内容が、あまり一般人の人に知られて、いなかった様であった。



工事着手 大正十一年十一月
 工事完成 大正十五年四月二十日
 総工費 約六〇万円
 構造 総樺材使用
 間口十八間
 奥行十八間

施行者 井波町 松井 角平さん
 現場責任者 井波町 松井 鉄次郎さん
 現場棟梁 東城 助太郎さん

別院に運んだ。夕方から宵の口にかけての行事である。勿論その間、市電はストップ、諸車通行禁止で警察も出動願った次第である。大虹梁(多分山陰方面で造材)運搬の時も、そうであった。三、四回行った様に覚えて居る。大変に仰々しいが、これには西別院側も一策あったと思う。一般市民の関心が高まれば、それだけ、寄附も多く募る事が出来る為である。当時善男・善女に索かれて行く、八角柱及大虹梁の様子の写真、十数

枚あったが、これも帖単筒に入れてあったので戦災で焼失した。富山西別院は、大正十五年四月二十日(四月二十二日落慶)入仏法要が勤修された。父は表彰された。記念品として左記が贈られた。

全く隔世の感である。
 新富山本願寺概要
 昭和四十二年七月一日〜二日
 大谷光昭門主親修
 遷仏・慶讃法要厳修
 鉄筋三階建、冷暖房完備、総延坪一、二五四坪、富山本願寺と改称昇格

新しい西別院建立について、特別寄附を依頼されたので、旧の別院は、父が大変に因縁が深い事か

こいけものがたり
 善三郎翁記

用材中最も素人に材積が大きくて、目立つのは丸柱・虹梁等である。丸柱用の八角に造材された樺の長材が、富山駅貨物ホームに到着した。多分新潟県で造材したらしい。当時は馬車の時代であるので、荷台に八角の柱用材数本を積み上げ、馬車馬の替りに、当店の木挽き、人夫が棍棒に入り、棍を取り、大きな引き綱数本に、別院側から繰り出された、善男善女数百人が、綱引きして、富山駅―桜橋―木町通りから、右折れして西

枚あったが、これも帖単筒に入れてあったので戦災で焼失した。富山西別院は、大正十五年四月二十日(四月二十二日落慶)入仏法要が勤修された。父は表彰された。記念品として左記が贈られた。

ら、供養の意味をも含めて、父の名義で寄附に応じたら、京都本願寺本山から院号が贈られた。

の正装で参詣した。私は父の後から御酒を持って従って行き乍ら、私の父も年が老いたなノ頭には白いものがぼつぼつと見える。私も早く一人前になって、父の手助けを、しなければと決意した事を、今日でも、はっきり覚えて居る。その時は祖父を見ると、お化けの様に考えて居た。